

第6回日本プロオーケストラファンクラブ協議会総会札幌大会

第6回J O F C総会 in 札幌'12

# 議 案 書

主 催 **札幌くらぶ**

日 時 平成24年11月10日午前12時～午後2時

場 所 札幌パークホテル2階パールルーム

助 成 さぽーとほっと基金（創建まちづくり基金）

## \*\* 目 次 \*\*

第6回J O F C総会 in 札幌 '12総会式次第	2
仙台フィルハーモニークラブの支援に関する説明	3
幹事の指名の説明	3
会員拡大に関する活動報告	4
広響フレンズ	5
名フィル・ファンクラブ	6
石川県立音楽堂楽友会	7
群響ファンズ	8
山響ファンクラブ	9
仙台フィルハーモニークラブ	11
札幌くらぶ	12
札幌宣言	13
札幌宣言の説明	14
札幌宣言（案）	15
第6回J O F C総会 in 札幌 '12交流会式次第	16
第6回J O F C総会 in 札幌 '12二次会案内	17

## 「第6回JOF C総会 in 札幌'12」総会式次第

(※JOF C関係者は敬称略)

- 1 開会宣言……………司会 (事務局長 武藤 義典、事務局次長 定政みち子)
- 2 歓迎のあいさつ……………JOF C会長 上田 文雄 (札幌くらぶ会長)
- 3 来賓紹介……………札幌交響楽団専務理事 小沢 正晴 様  
……………札幌市観光文化局長 可児 敏章 様 (札幌理事)  
……………札幌市観光文化局文化部長 杉本 雅章 様 (札幌評議員)  
……………石川県音楽文化振興事業団常務理事 三国 栄 様  
……………札幌市芸術文化財団コンサートホール事業部管理課長 柿崎 昭 様
- 4 来賓あいさつ……………札幌交響楽団専務理事 小沢 正晴 様  
……………札幌市観光文化局長 可児 敏章 様 (札幌理事)
- 5 議長就任……………札幌くらぶ事務局次長 村上 均
- 6 仙台フィルハーモニッククラブの支援について
- 7 幹事の指名について
- 8 会員拡大に関する活動報告 (南から順に)  
広響フレンズ……………発表者 (佐藤 幸一)  
名フィル・ファンクラブ……………発表者 (代表幹事 山田 博子)  
石川県立音楽堂楽友会……………発表者 (代表幹事 静岡 俊郎)  
群響ファンズ……………発表者 (事務局長 石守 晃)  
山響ファンクラブ……………発表者 (事務局長 保科 誠)  
仙台フィルハーモニッククラブ……………発表者 (会長 長島 栄一)  
札幌くらぶ……………発表者 (事務局長 武藤 義典)
- 9 札幌宣言発表、採択
- 10 第7回総会開催地について
- 11 第7回総会開催地主催者のあいさつ  
……………仙台フィルハーモニッククラブ会長 長島 栄一
- 12 閉会のことば……………JOF C副会長 工藤 一郎
- 13 閉会宣言……………司会
- 14 集合写真撮影

## 仙台フィルハーモニークラブの支援に関する説明

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、未曾有の被害をもたらした。仙台フィルハーモニー管弦楽団（仙台フィル）と仙台フィルハーモニークラブ（SPC）も思うように活動ができなくなりました。

私たちJOFCは、仙台フィルとSPCを直接支援しようと、会員クラブが義援金募集活動を実施し、すでに仙台フィルに直接義援金を贈らせていただきました。

この中で、群響ファンズ小野会長からSPCの活動を支援することができないかと次の提案がありました。

音楽の力を信じ、一人でも多くの人に仙台フィルの音楽を届けようとして実施されているSPCシート活動に対し支援することは仙フィルおよびSPCの何れにも有用であり、また、JOFCの理念にも沿うものだと思います。

したがって、私ども群響ファンズはJOFCの一員として私どもが集めた義援金をSPCシートの拡大に使用していただければと寄贈させていただきます。

仙台フィルの聴衆を広めるという現在のSPCシートの趣旨を生かし、さらに若い聴衆の拡大、中学、高校生のコンサートへの動員など将来の仙台フィルファンを作っていくような活動につなげていただければ幸いに思います。

~~~~~

## 幹事の指名に関する説明

仙台フィルハーモニークラブにおきまして、5月12日の総会で会長はじめ役員の変更があり、JOFC幹事を務められていた事務局長も交代され、JOFC幹事には新任の事務局長佐藤佳世氏に交代することに、また、広響フレンズにおきましても、JOFC幹事を務めておられました代表谷邦彦氏が役割を果たすことが難しくなり、現在、代表的立場にある佐藤幸一氏に交代するとの連絡をいただきました。

# 会員拡大に関する活動報告

|               |       |            |
|---------------|-------|------------|
| 広響フレンズ        | ----- | 佐藤 幸一      |
| 名フィル・ファンクラブ   | ----- | 代表幹事 山田 博子 |
| 石川県立音楽堂楽友会    | ----- | 代表幹事 静岡 俊郎 |
| 群響ファンズ        | ----- | 事務局長 石守 晃  |
| 山響ファンクラブ      | ----- | 事務局長 保科 誠  |
| 仙台フィルハーモニークラブ | ----- | 会長 長島 栄一   |
| 札幌くらぶ         | ----- | 事務局長 武藤 義典 |

## 「第6回JOFCC総会 in 札幌」広響フレンズ活動報告

2012年11月10日

報告担当者 佐藤幸一(スタッフ)

① 広響フレンズは、1998年12月に創設。

年会費3000円で協会主催演奏会に入場料2割引、楽団員との定期的交流の場の提供、が主な特典で、これにより入場者の拡大を目指した会員制度で、広島県・市からの財政支援要請をするため、改善のための具体的方針のひとつとして考えられた制度です。後者の交流活動をすすめるためスタッフ(世話人)が選任され、2000年6月の第1回総会を皮切りに、2011年4月の第10回総会・交流会まで、活動を続けました。

その他の活動

野外交流会5回、ボウリング大会2回

協会誌「トレンド広響」に記事掲載(団員インタビュー、行事報告等)約30号分  
定期演奏会会場ロビーにてニュースなど情報宣伝記事の掲示

関連行事において受付、進行の手助け

日本プロオーケストラファンクラブ協議会総会への参加(2006年の札幌設立会から昨年(2011)年の金沢大会まで)

② しかし、このような献身的なスタッフ活動に対し、定演入場者増加の効果がみあたらないなどの不当な理由で解散の通知を受け、数回にわたる撤回を求めた交渉を重ねましたが、昨年4月10日をもってスタッフ体制解散、「広響フレンズ」の会員制度も、今年3月31日にて各種会員制度改革により終了しました。

③ その後の経過(現状)

1. 残ったスタッフ・支援者10名余によって、不定期ながら定期演奏会後などを利用して、再建会議を開き、今後の構想を話し合っています。少人数のクラブ的集団から始める、年会費はとらず、一つの行事毎に精算しながら実績を重ねる、支援団員の関係するコンサートに協力しながら会員(協力者)をつのる、など色々案は出てますが、具体化には至らない現状です。
2. 再建に重要な存在となる楽団員協力者とは、忘年会なども含め3回話し合い、協力の感触は得ていますが、再建の具体策(案)が整わないと進展しない雰囲気です。
3. 以上が現在の状態で、これから考え方を煮詰め、一步でも前進した結果を得たい、と考えています。なお、「広響フレンズ」という名称は、制度そのものが消滅したため、引続き、再建グループの象徴として使用しています。

以上

名フィルファンクラブ会員拡大策について

1. 現状

|                                                                                                                                                            |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 幹事が業務多忙で会員と楽団員を近づける魅力的な企画をタイムリーに立てられず、実行出来ていない為、会員の満足度が低く、徐々に脱会していくが、引止め策を考える時間すらなく、5年前と比較すると、会員数が28%落ちている(253名→181名)<br>会員が魅力的なのはチケットの10%割引と先行予約くらいになっている |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

2. 現状の問題点

| 課題           | 詳細                                                                      | これまでの検討経緯                                            |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| 1 幹事の活動      | ①業務多忙で活動余裕がない<br>②役割が不明確                                                | 企画&実行者が限定され<br>個人負担大                                 |
| 2 イベントの実施が困難 | ③年間活動スケジュールがない<br>④イベントを行う場所の確保が困難<br>・会場費高額<br>・会費が高く、アクセスが不便だと参加人数少ない | ・ミニコンサート:1回/半年程度<br>・人脈に頼り依頼するも費用等に<br>限界あり          |
| 3 楽団員との距離が遠い | ⑤他のファンクラブのように、楽団員と直接<br>触れ合う機会がない                                       | ・欧州、アジアツアーの壮行会の<br>実施実績あり(楽団員多数参加)<br>・楽器説明会・ゴルフ会の実施 |
| 4 会員数の減少     | ⑥会員のメリットが少ない                                                            | ・会員引止め策未検討                                           |
| 5 新規会員の獲得    | ⑦会員拡大策が未検討                                                              | ・定期演奏会時に受付出す程度                                       |

3. 目標

|                          |
|--------------------------|
| <b>会員数を 1年間で 10%UPする</b> |
|--------------------------|

4. 対策案

| 課題           | 対策案                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 幹事の活動      | 1) 定期的な幹事会の実施 (1回/月)<br>2) 幹事の役割分担の明確化と役割の確実な実行、事務局の援助拡大                                                                                                                                                                                                                            |
| 2 イベントの実施が困難 | 3) ファンクラブ年間活動計画作成(名フィル事務局と相談)<br>4) 会場:協力ホテル、企業ホール、貸ホール等の調査と依頼<br>5) 会費は3,000円/人程度で企画                                                                                                                                                                                               |
| 3 楽団員との距離が遠い | 6) ミニコンサートの継続実施 (2回/年)<br>7) 楽団員(個人・グループ)の演奏会ちらしの紹介<br>8) 楽団員との懇親会、会員同士の懇親会の継続実施                                                                                                                                                                                                    |
| 4 会員数の減少     | 9) アンケートを実施し、ファンクラブに求めているものを見極め、要望に応える<br>10) 常任指揮者からの年賀状送付<br>11) 会員誕生日に楽団員から誕生カードの送付<br>12) 来年度のオリジナル卓上カレンダーの作成と送付<br>13) 会員継続時の記念品プレゼント<br>14) メール保持者の特典の設定<br>15) 魅力あるファンクラブ年間活動スケジュールの作成と実施<br>16) 会報誌の定期発行(3回/年)<br>17) 来年度年間プログラム解説会の開催(前期・後期)<br>18) ゲネプロ見学<br>19) 会員特典の見直し |
| 5 新規会員の獲得    | 20) 非会員へのファンクラブの存在と特典のアピール(ちらし入込み)<br>21) ファミリー割引・お友達紹介割引等の新規設定<br>22) 新規入会時に記念品をプレゼント<br>23) 定期演奏会時のファンクラブブースの充実(特典の見える化)<br>・名フィルと楽団員の近況報告版(コメント、写真等)<br>・ファンクラブイベント案内(楽団員との懇親会、ゴルフ、釣り等)<br>・チケット10%割引と先行予約可能な特典の大々的アピール                                                          |
| 6 新規企画       | 24) 各種ライブハウス等にファンクラブの案内・特典のちらしを設置<br>25) 会費の一部を使用し、学生をコンサートに招待(アドバイス)                                                                                                                                                                                                               |

## 石川県立音楽堂楽友会活動報告

ただいまご紹介に預かりました楽友会代表幹事静岡俊郎でございます。よろしくお願いたします。

私たち楽友会では今年で10周年を迎えました。これを機会に会費制を導入致しましたが、ボランティア団体で会費は必要でないのではとの、反対意見もあり17名の退会者が出ました。その当時で70名前後までの会員の減少があり、その後いろいろな機会を利用しながら現在86名まで確保できました。その機会の内容を少しお話させていただきます。

1. 近年一般定期会員数の減少傾向にありますので、楽友会員の知人等定期会員の入会を紹介して事業団のお手伝いを致しております。確保することにより楽友会へのお誘いする機会も多くなります。
2. 定期演奏会は年間20回ありますが、会場に楽友会募集のチラシを演奏会当日会場に演奏会チラシとともに希望者に配布し実績が出ております。
3. 楽友会の事業の一つにロビーコンサートを年間6回～7回開催しておりますが、毎回200～300名の参加がありますので、楽友会への入会を呼びかけております。
4. オーケストラアンサンブル金沢（OEK）国内および海外での演奏会の鑑賞旅行を実施し、定期会員の方たちもお誘いしております。旅行中に親しくなり楽友会への入会をすすめており実績が出ております。

こうした地道な活動の繰り返しだと思っております。

今後の問題点としては楽友会員の高齢化が進んでおり、若返り策を講ずる魅力ある事業の展開を図るべく努力して参りたいと思っております。

以上

## 会員拡大を図るための活動－群響ファンズ－

### 1 群響ファンズ（群響を応援する県民の会）の会員の推移

当会は群馬県議会での群響批判に端を発した補助金削減に対抗して実施された「頑張れ群響コンサート」（1988年開催）の事務局を母体として同年発足した。

その頃の会員は商工会議所や音楽鑑賞会、労働組合、そして群響楽員の働き掛けで県内各地に誕生しつつあった〇〇群響を応援する会（名称はそれぞれ）といった団体会員が主体で、個人会員は会長1人であった。1994年の群響初の海外公演に際しては200万円を寄付出来る程の盛り上がりを見せていた。その後、景気の後退とともに、脱退する団体や解散する団体、人は出せるが金を出せないといった団体が増え、会費の徴収に苦慮するようになり会の運営が危ぶまれる事態となった。そこで、1997年、個人会員を拡大するという方針が立てられ、同年より個人会員の募集が始まった。個人会員の人数は1997年95名、1998年147名、1999年174名、2000年198名、2001年221名と増加し、その後は220～230名で推移している。なお、団体会員は現在僅か2団体が残るのみで1団体は来年には解散が予定されている。

### 2 会員拡大の方法

主たる方法は「口コミ」である。

群響合唱団員や当会役員・事務局関係者の知人への口コミによる会員勧誘が主たるものであるが、群響の定期演奏会場の音楽センターロビーにファンズのブースを設けて会員募集を行っている。ちなみに群響合唱団は1989年、当会が中心となって発足させたもので、合唱団員の多くが当会ならびに群響の定期会員となり、定期演奏会を盛り上げている。

### 3 会員と群響楽員との交流事業

これまで年末に開催してきた群響クリスマスパーティーと東京公演応援バスツアーの2大交流事業が、いずれも今年度群響の日程の都合により開催できなくなり、これに替わる事業を現在模索中である。

## 【共通テーマ：会員拡大にむけた活動】

山響ファンクラブの会員拡大に関する課題としては、裏面の連関図のようなものがある。今年度、山形交響楽団 40 周年を迎えるにあたり、拡大予算による祝賀事業の実施も絡めつつ、以下の活動を行っている。

### 【H24 年度 重点方針より】

#### 1. 会員同士の交流事業を充実する。(活動的で魅力的なコアメンバーを増やす)

楽団との合同芋煮会・忘年会だけでなく、その他の時期にも継続的に懇親会やお茶会を企画し、会員交流の機会を増加した。この中で、飲酒を伴わない気軽なお茶会からアフィニスレセプション参加やマエストロを招いてのホテルでの懇親会まで、バリエーションを広げることで参加者の拡大を目指した。置賜地区においては、新入会員歓迎のお茶会企画を行うなど、特に新入会員の方がファンクラブに溶け込む仕組みを意識した。会報や直接交流による情報共有に重点をおきつつ、ホームページに加えフェイスブックによる交流事業も開始した。

|       |     |   |                                    |
|-------|-----|---|------------------------------------|
| 2011年 | 11月 | 新 | 置賜お茶会                              |
|       | 12月 |   | 楽団・FC合同忘年会                         |
| 2012年 | 5月  | 新 | 上杉伯爵邸園遊会グループ参加                     |
|       | 5月  | 新 | 新入会員歓迎置賜お茶会                        |
|       | 6月  | 新 | 非公式東京打上げを会員に案内                     |
|       | 7月  | 新 | 総会/お茶会 (楽団GM歓迎)                    |
|       | 7月  | 新 | SPC/YFC合同 “復活” 懇親会                 |
|       | 8月  | 隔 | アフィニス音楽祭レセプション                     |
|       | 9月  |   | 楽団・FC合同芋煮会                         |
|       | 10月 | 新 | “マエストロと語る楽団40周年”<br>(記念対談公開収録と懇親会) |



#### 2. 楽団 40 周年祝賀事業を通じ、演奏会ごとの一枚会報 (情報誌) 配布事業を立ち上げる。

FC 広報の場・勧誘活動とともに、より実効性の高い楽団支援をめざし、演奏者の座席表をメインコンテンツとする 1 枚会報の演奏会配布を立ち上げる。楽団事務局や山響応援県民会議と協業し、第一弾として東京・大阪公演および仙台・山形での山響・仙フィル合同 “復活” 演奏会にて座席表単体の発行を実施した。(別添) 11 月定期演奏会より、裏面に FC 入会案内や、関連諸団体の情報を掲載し会報化、連続発行への道筋をつける。

#### 3. ファンクラブ 15 周年 (2015 年) での会員特典拡充を目指す。

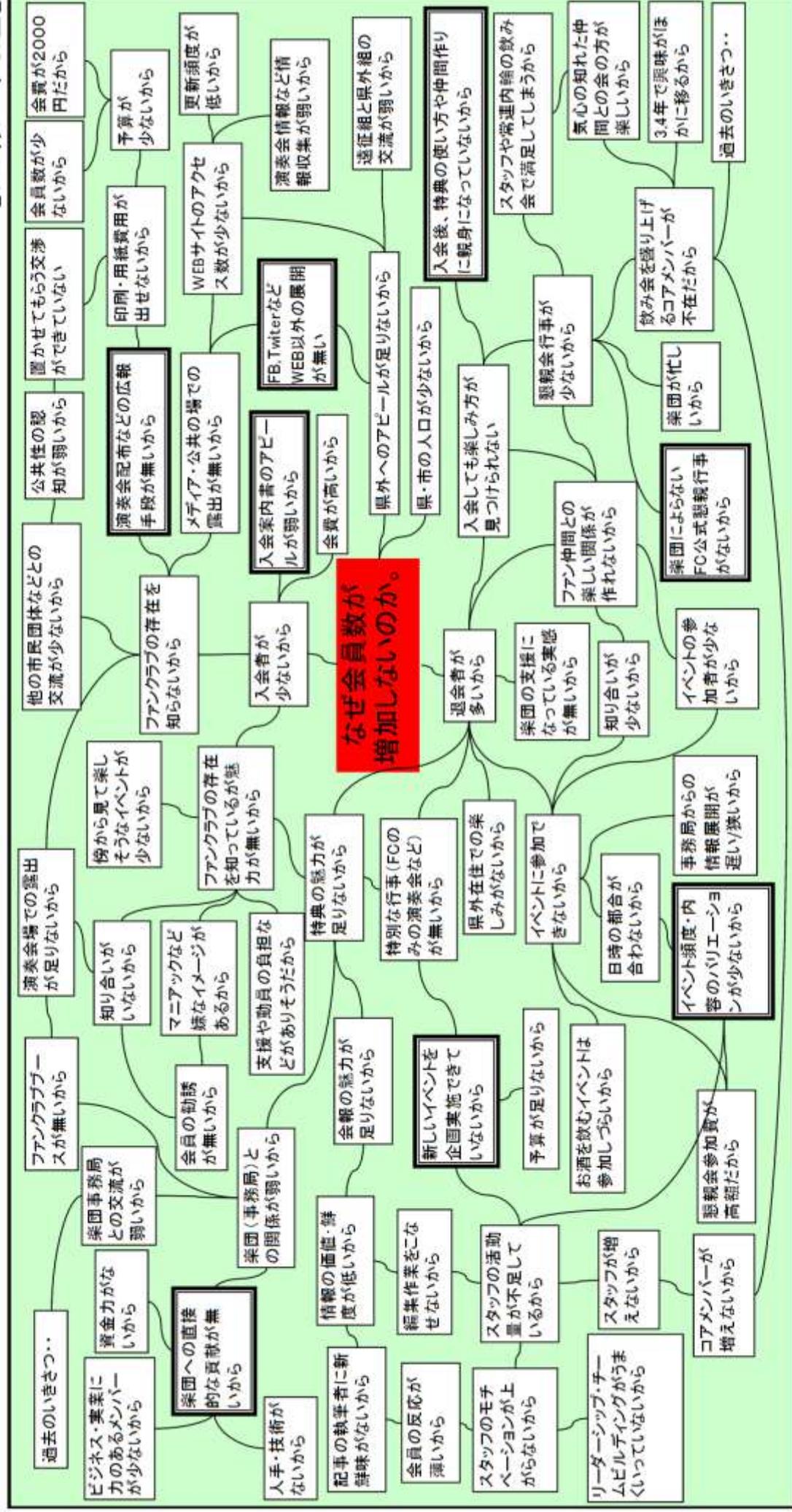
魅力的な会員特典は、会員勧誘・会員満足に重要。今年度は、お茶会などでの対話やアンケートを通じて会員の希望を取りまとめるとともに、2 で挙げた演奏者座席表の提供など一層の楽団貢献と関係強化を進める。

#### 4. 仙台フィルハーモニークラブとの協力関係を発展させ、事業の可能性を広げるとともに、東日本大震災以来拡大している両オーケストラファンの交流を一層深めていく。(両楽団でも定期会員の相互優待サービスを開始) 7 月には、山響・仙台フィル合同 “復活” 演奏会後に、山響 FC/SPC 合同の懇親会を開催した。



【楽団関係の問題】

【広報の問題】



【スタッフチームの問題】

【懇親・イベントの問題】

→2012年は [ ] の課題にフォーカスして活動する。

## SPCから見た会員拡大のための活動

会長 長島 榮一

仙台フィルのファンクラブは、仙台フィルの演奏に感動し、自主的に集まった聴衆が立ち上げ、運営しています。当会も好景気の余韻が残る平成10年頃には会員数が200名近くおりましたが、現在では100名程となっています。しかし活動内容は現在の方が充実していると感じております。オーケストラを支援しようとするファンクラブの会員が増えることはよい事ですが、それがファンクラブそれ自体や活動内容を評価するバロメーターにはならないと考えます。

オーケストラが直接運営するファンクラブやそれに近い形態のファンクラブでしたら、聴衆へのサービスやチケットの優待等でメリットを作り出せますが、当会ではそれは難しいことです。会としては会報、ホームページ、定期演奏会毎の通信を作成したり、楽員を招いての演奏付のセミナーや懇談会などを開催しています。これらの活動を通じて①仙台フィルがなければ知り合えなかった仲間が出来ること、②演奏家の個性や音楽性とふれあう場をつくれること、③音楽を知る機会の広がりが生れることなどの、会員数では計れない成果を上げていると考えております。

最も会員が多かった時期の状況を思い起こしますと、①コンサートへ行きやすかった(チケット代、コンサートの数や種類、時間的余裕、家族の理解)、②オーケストラの技術水準が飛躍的に向上した(外山雄三氏の功績)、③魅力ある指揮者や演奏家が招聘されていた(パーボ・ヤルビ、尾高忠明、広上純一、パメラ・フランク、服部譲二等)、④コンクールの開催による新たな楽しみ方の創出があったなどの理由で、聴衆が増えた時期と重なります。会員の増員をファンクラブ自体でだけで実行するのは難しく、聴衆の拡大をはかるオーケストラのマネジメントと不可分と思われれます。

聴衆の拡大をはかるオーケストラのマネジメントと、ファンクラブとしてオーケストラと身近に接する多様な楽しみ方があるときに、両輪が揃うように聴衆もファンクラブの会員も拡大するのものと考えます。その際に重要なポイントになるのが楽員のみなさんのファンクラブを含めた聴衆への目線なり、接し方で、心のこもったトークなどが会場や日常で出来るかということです。市民の興味を引きつけるような、音だけではない人間性のアピールが内在しているかが重要と考えます。

市民の中へ入って行く楽員、演奏だけでないものを届けられる楽員の存在が、当地でのファン拡大になくてはならないものです。そこに接点を求めた活動の具体化が会員拡大を図るための活動の根底と考えるものです。

札幌くらぶの活動がより広く、確かなものにするために

## 札幌くらぶ会員の拡大の取組みについて

事務局長 武藤義典

札幌くらぶの会員は750名を超えた時期もありましたが、その後漸減しながら現在は460～470名台に落ち着いています。

平成20年、札幌くらぶコンサートの復活を検討する際に会員数の検討がなされ、安定した開催をするにはキタラの座席数に匹敵する2000名が必要とされました。

確かに大きなイベントの開催や札幌を応援する際、それに参加する人たちの動員が会員だけでほぼ達成できるような活動ができることが理想といえます。

そこで、札幌くらぶの会員を拡大する取組みとして、まず、札幌くらぶの活動が何よりも魅力あるものしなければならない、そしてその活動を広く発信していかなければならない、として今年度から次の活動を始めることにしました。

- ◆会報への投稿を呼びかけ、会員の活動への参加を促す。
- ◆「札幌くらぶサロン」の会員以外の参加など可能とする。
- ◆札幌との懇談会など情報交換する機会を多くつくる。
- ◆会報発送の際に『会員募集』のチラシを入れ、会員に知人・友人を誘って貰うこと、ファミリー会員、定期・維持会員など募集などを実施する。
- ◆入会案内パンフレットの更新を検討する。
- ◆札幌の地方公演の際、主催者の承認が得られれば、開催地の会員が主体となってサービスデスクを設置して新規会員募集を行う。必要があれば運営スタッフが応援する。
- ◆札幌くらぶ会員と定期会員の違いをアピールする、楽譜支援について贈呈式の実施など札幌応援をもっとアピールする。

この中から先月ファミリー会員入会、会員紹介の案内のチラシを会報「札幌くらぶ」第60号発送の際に同封し、ファミリー会員、会員の新規入会を募集するとともに、札幌くらぶサロン開講案内チラシを会員以外にも配布、参加者には入会を勧めることにしております。

# 札幌宣言

札幌宣言の説明

札幌宣言（案）

## 札幌宣言の説明

2005年山形宣言に始まったJOF Cは各地域で様々な施策を展開してきた。7年目を迎えJOF C総会が一巡し、新たな目標を立てていくことが重要となってきた。

金沢や仙台、山形にみられるように各地域のファンクラブ活動が促進され、広島が新たな支援組織を立ち上げようとしており、九州ではファンクラブが結成され、新たなJOF C加盟団体も出てきつつある。間もなくむかえる10年の節目に向けての問題提起を示していきたい。

私たちファンクラブは、単にオーケストラを応援するだけではなく、市民に向かってオーケストラを維持発展させることの意義を訴え、豊かなオーディエンスを創り、音楽があふれるまちを創造することによってオーケストラの存在の意味があるといえる。

JOF Cが取り組んできた「事業仕訳反対署名」や「大震災被害への直接支援」など大きな意味を創ってきたといえる。しかし、ここで立ち止まって、自分たちの活動を振り返り、おらがまちのオーケストラを支援する意味を整理し、どう市民に知らしめていくかを検討してほしいとの思いを込めている。



# 札幌宣言

2006年札幌において、私たちは全国のオーケストラファンクラブが手をつなぎ、日本の音楽文化のより発展と「私たちのまちのオーケストラ」を支援し、発展させるために「日本プロオーケストラファンクラブ協議会（JOF C）」を結成した。

あの忌まわしい3.11東日本大震災で大打撃を受けた私たち仙台のまちのオーケストラは、「市民に生きる力」を与えてくれた。

札幌くらぶの施策「楽譜支援」の輪を通して、豊かなオーディエンスを創り、私たち札幌のまちのオーケストラは、「市民の誇り」を創ってくれた。

札幌くらぶからの政策提言として実現した、小学6年生全員が札幌をキタラホールで聴くことで、私たち札幌のまちのオーケストラは、「子供たちに創造力」を与えてくれた。

いまこそJOFCは「音楽の力」を信じ、私たちのまちのオーケストラ支援と市民をつなぎ、音楽あふれるまちを築こうではありませんか。そのために必要な施策を勇気をもって実践していくことをここに宣言します。

平成24年11月10日

日本プロオーケストラファンクラブ協議会

会長 上田 文雄

札幌総会出席者一同

## 第554回札幌交響楽団定期演奏会

日 時 11月10日(土) B日程 15:00

場 所 札幌コンサートホールKitara大ホール

指 揮/尾高 忠明(音楽監督)

ピ ア ノ/ジョン・リル

演奏曲目

ベートーヴェン/ピアノ協奏曲第5番変ホ長調 op. 73  
「皇帝」

エルガー/交響曲第1番変イ長調 op. 55

## 「第6回JOF C総会 in 札幌'12」交流会式次第

日時 平成24年11月10日午後6時～8時

場所 札幌パークホテル2階パールルーム

### 1 札幌有志によるオープニングコンサート

出演者

演奏曲

2 歓迎あいさつ……………札幌くらぶ副会長 鈴木 美保

3 開会のことば……………JOF C副会長 加藤 聡 (山響ファンクラブ顧問)

4 来賓あいさつ……………札幌交響楽団理事長 村田 正敏 様

……………札幌市観光文化局文化部長 杉本 雅章 様 (札幌評議員)

……………石川県音楽文化振興事業団常務理事 三国 栄 様

### 5 開 宴

① 乾 杯……………JOF C副会長 小野 善平 (群響ファンズ会長)

(しばらく歓談)

② 来賓スピーチ

札幌市観光文化局文化部長 杉本 雅章 様 (札幌評議員)

石川県音楽文化振興事業団常務理事 三国 栄 様

札幌交響楽団音楽監督 尾高 忠明 様のメッセージの紹介

札幌交響楽団事務局長 宮澤 敏夫 様

札幌市芸術文化財団コンサートホール事業部管理課長 柿崎 昭 様

③ 参加クラブ、札幌の紹介

札幌交響楽団事務局、楽団員 名

広響フレンズ 3名

名フィル・ファンクラブ 3名

石川県立音楽堂楽友会 7名

群響ファンズ 9名

山響ファンクラブ 8名

仙台フィルハーモニークラブ 8名

札幌くらぶ 32名

6 閉会のことば JOF C幹事長 西川 吉武 (札幌くらぶ副会長)

# 「第6回J O F C総会 in 札幌'12」二次会

日 時 平成24年11月10日午後8時30～

場 所 古艦帆来 (コロポックル) (南4条西4丁目松岡ビル3F)

## 二次会会場案内図

